

**「市立幼稚園・保育所のあり方について」に関する説明会議事録**

日 時	平成29年7月13日(木) 10:30~11:15														
場 所	朝日ヶ丘幼稚園														
出 席 者	<table border="0"> <tr> <td>教育長</td> <td>福岡 憲助</td> </tr> <tr> <td>教育委員会管理部長</td> <td>岸田 太</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部長</td> <td>三井 幸裕</td> </tr> <tr> <td>教育委員会管理部管理課長</td> <td>山川 範</td> </tr> <tr> <td>教育委員会学校教育部主幹</td> <td>中塚 景子</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部子育て推進課長</td> <td>伊藤 浩一</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部主幹子育て施設担当</td> <td>長岡 良徳</td> </tr> </table>	教育長	福岡 憲助	教育委員会管理部長	岸田 太	こども・健康部長	三井 幸裕	教育委員会管理部管理課長	山川 範	教育委員会学校教育部主幹	中塚 景子	こども・健康部子育て推進課長	伊藤 浩一	こども・健康部主幹子育て施設担当	長岡 良徳
教育長	福岡 憲助														
教育委員会管理部長	岸田 太														
こども・健康部長	三井 幸裕														
教育委員会管理部管理課長	山川 範														
教育委員会学校教育部主幹	中塚 景子														
こども・健康部子育て推進課長	伊藤 浩一														
こども・健康部主幹子育て施設担当	長岡 良徳														
事 務 局	教育委員会管理部管理課														
参 加 者 数	22人														

1 次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

(福岡教育長) 2月に幼稚園と保育所のあり方について皆様にお示しさせていただき、これから朝日ヶ丘幼稚園はどうなるのだろうかということ、不安であったり、心配であったり、さまざまな思いを抱かれていることに対して、申し訳なく思っているところでございますが、市民の皆様や、ここに来ていただいた皆様の御意見、そして市議会議員の皆様がたくさん御意見をいただく中で、きょうの資料でも書いておりますが、6月13日公表分として、その中の1番目に、朝日ヶ丘幼稚園についての変更点を明記しております。そのことにつきましては、今日は担当の部長、課長が来ておりますから、その話をさせていただきます。

そして6月公表分の中で残った部分がありましたので、市長部局と教育委員会とがもう一度検討し直す中で、7月11日公表分という形でさせていただきました。そういうトータルの中で、今日は御説明させていただきます。いろんな御質問をいただき、また私どもも説明をさせて

いただきたく思いますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。  
(事務局岸田) 1枚ものの資料について御説明いたします。書いてある内容は記載のとおりでございます。

6月13日の公表というのは、2月に発表した計画を一部見直しまして、大きく1, 2, 3とございますが、3番の西蔵のこども園について、規模は縮小するのだけれど、どれぐらいかということが、6月13日時点では具体的な定員数まではお示しできていなかったもので、7月11日に3番の部分だけを改めて公表したという流れでございます。

ここは幼稚園ですので、6月13日のほうの1番に、山手圏域の待機児童、保育定員の確保というところで、朝日ヶ丘幼稚園が平成31年度末、すなわち平成32年3月で一旦は閉園ということになりますので、朝日ヶ丘幼稚園の跡の敷地を活用して、平成33年4月開園をめどに、私立の認定こども園を誘致するということが、朝日ヶ丘での大きなポイントです。

これは、2月に今回の大きな計画をお示しした後、山手地区の待機児童対策の具体策が示されていないということで、議会や市民の皆様から多くの御意見をいただきましたので、このたび朝日ヶ丘幼稚園の跡地を利用して、私立の認定こども園を誘致するという案を今回お示したものでございます。

3番の西蔵町の認定こども園ですが、伊勢幼稚園と宮川幼稚園と新浜保育所の3つの施設を統合して、西蔵町のところに300人規模の大きな公立の認定こども園を整備しますというのがもともとの計画でございましたが、芦屋の中で今のところ300人もの就学前教育保育施設がございません。今後、南芦屋浜や浜風幼稚園跡でも認定こども園が来年4月からオープンしますが、180人から200人規模ですので、300人規模の認定こども園に対する市民の皆様の不安の声、感染症が起こったときどうするのか、津波が起こったとき300人が一遍に避難できるのか、あるいはそれだけの子どもがいると送り迎えの車がすごい量になるのではないかとといった御不安がありましたことから、7月11日に公表させていただきましたが、西蔵の認定こども園については、186名の定員規模とします。幼稚園部分が90名、保育所部分が96名、合計186名とするとしております。

もともと300人の規模なので3つの施設の統合と考えていましたが、186名ということになると、3つの施設の統合が物理的にできなくなるということで、宮川幼稚園を統合の枠組みから外して、伊勢幼稚園と新浜保育所の統合という位置づけで、186人とするということで、宮川幼

稚園は幼稚園として存続させていくということが大きな見直しです。

最後に伊勢幼稚園の統合後の跡地についても、私立の認定こども園を誘致します。これは300人と言っていたものが186人まで減りましたので、その後の待機児童の対策と、あとは3歳の幼稚園ニーズに対応するために、伊勢幼稚園の跡に私立の認定こども園を誘致するというのが、このたびの6月及び7月の一連の大きな改正の内容でございます。

この朝日ヶ丘幼稚園の前の道路は、朝7時半から9時までは通学路のための交通規制がかかります。認定こども園にするということになると、ゼロ歳、1歳、2歳のお子様もおられて、送り迎えのための車の送迎も必須になってまいりますので、ここが通行規制されている中で、どのように駐車場を確保していくかというのが1つの大きな課題になってまいります。今後その課題については教育委員会と市長部局で協議、検討して、何らかの形で解決を図りながら、33年4月の開園を目指して、私立の認定こども園を誘致したいと考えているのが今の案でございます。

変更の内容については以上です。

(保護者) 今年の入園願書の受付が近づくにつれ、来年度入園される保護者のお母様はどこの幼稚園にしようかすごく迷われているというお声をよく聞くのですが、自分たちが年長になったときに、下の年少さんがおられないことで少し不安になられているので、もともと朝日ヶ丘幼稚園に入園しようと思っていた方が、岩園幼稚園にしようかとか、ほかの幼稚園にしようかと迷われているお声をよく聞きます。幼稚園でもっと行事などをして活性等を図り、もっと盛り上げていきたいので、それにはたくさんの方が必要ですが、来年度入園される方が少なくなる見込みなので、入園される方が年長児になったときに、転園とかそういうお声は聞いていないのですが、朝日ヶ丘幼稚園に入っていて、その後転園するといった前例はありますか。年長児になる際に他の幼稚園に転園とかいうことは、ほかの幼稚園でもありますでしょうか。転園をスムーズにお手伝いするというを前提で、募集をかけて、運営していただくということができないでしょうか。

(事務局岸田) 今、考えておりますのは、2月にもお示ししましたけれども、この10月に募集する際は普通に入っていて、来年10月は、新4歳の募集の停止をしますという計画です。

(保護者) 入園されても年長時に下のお子さんがないということで、ほかの幼稚園に流れてしまうので、私としては1人でも多くの方にこちらの幼稚園

園に入って来ていただきたいので、転園したいとかいう声は聞いてないですけど、もし年長のときに転園がスムーズにできるのであれば、入ってもいいかなという人がいれば、お引っ越しという形で受け入れるということは可能でしょうか。

(事務局岸田) それは全く可能です。

(保護者) 他の幼稚園でそういう前例もありますか。

(事務局岸田) はい。この10月に応募していただいて、来年は4歳で朝日ヶ丘幼稚園でお過ごしいただいて、再来年は下の子が入って来ないので、再来年のときに、例えば岩園幼稚園に転園できないかということですね。

(保護者) はい。

(事務局岸田) 全く可能です。

(保護者) 転園というのは、保護者様の意見で聞いたところではないですけども、個人的に転園できるということが前提だったら、もう少し人数は集められるのではないかと思います。

(事務局岸田) そもそも幼稚園には園区がございませんので、ある意味自由にお選びいただける制度になっていますので、今、申し上げられることは、岩園幼稚園であっても、西山幼稚園であっても、全く可能でございます。

(保護者) 入園募集のときに、転園を前提として募集できるかとか、そういうのはできますか。

(事務局岸田) はい、もちろんそれもできます。転園を確約するということになるのか、いずれにしましても、西山幼稚園も岩園幼稚園も御存じのとおり、まだ空きは十分でございますので、再来年5歳になるときには、岩園幼稚園とか西山幼稚園とか、空きが十分にありますので、全く問題なく転園は可能です。

ただ、1つ気になりますのが、手続的には何の問題もないのですが、岩園幼稚園に入園される方は、4歳から岩園幼稚園でお過ごしになられて、2年目を迎えられる。そこへ入っていただくので、むしろ保護者の皆様の御不安がないかなということで、もし御不安がないということであれば、幼稚園側としてもそれは十分配慮して、岩園幼稚園であっても西山幼稚園であっても、幼稚園側は受け入れる体制でございます。

(保護者) できれば入園願書のときに、転園がスムーズにできてお手伝いするという感じの募集を呼びかけていただきたいのですけれども。

(事務局岸田) できれば、私どもは朝日ヶ丘幼稚園で残っていただきたいですし、朝日ヶ丘幼稚園を31年度も存続したいと思いますので転園を前提に募集をするまでは。

(保 護 者) 私も残っていただきたいのですが、もし10名を切る感じになったらと思ひまして、そういうふうにしていたほうが、来年度の園児数を集められるかなと思ひまして。

(事務局岸田) いずれにしても再来年の状況に応じて、平成31年は5人とか、8人しかいないから、これだと岩園幼稚園に行きたい、というお申し出があれば、その段階で岩園幼稚園に行っていたり、西山幼稚園に行っていたりという事は可能です。

(保 護 者) 御検討よろしくお願ひいたします。

(事務局岸田) はい。ただ、今、申し上げられますのは、募集の段階で転園ありきですよという言葉では申し上げられないのですが、お申し出があれば、それは十分対応はさせていただきます。もう1つは、朝日ヶ丘幼稚園の規模が小さくなったときにどうなるのだろうという御不安がおありだと思ひます。規模が小さくなれば、ある意味我々の思ひとしては、動きやすくなるということも片一方ではあると思ひていて、ことしも4歳児のお子さんが今16人ですけれど、16人ぐらいであれば、担任の先生が1人とフリーの先生が1人つくのですけれど、1クラスに担任の先生が形的に2人になるということになりますので、移動が非常にしやすくなると思ひています。例えば、週に1回とか2週間に1回、岩園幼稚園に交流しに行ったり、小学校に行ったり、この園だけにとどまらずいろいろなところへ交流できる、異年齢交流も積極的にしたいと思ひていますし、そういうことは園長先生とまた相談しながら、コンパクトになればなるなり、担任の先生が2人になる、きめ細かい保育、教育ができるのではないかなという、いい面もあるのではないかなと思ひています。

(事務局中塚) 今、転園ができるかという話についてお答えします。1年間は保育を受けていただくこととなります。年度途中はお引越などない限りは、その幼稚園でというのはいしおりに書いてあるのですけれども、入園のときに転園ありきでしたほうがいいのか、実際1年間生活をして友達関係もできるので、みんなと一緒に卒園しようと思われるかもしれませんし、最初から転園ありきでなくても良いのではないかなと思ひます。

また年長になったときに、朝日ヶ丘幼稚園の子どもたちはほとんど朝日ヶ丘小学校に入られると思ひます。朝日ヶ丘小学校と朝日ヶ丘幼稚園はとても交流が盛んなところで、実際に今日も5年生と一緒にプールで遊んでいるという話を聞いています。それだけではなくて、幼稚園の行事に必ず校長先生に来ていただいたり、研究会には学校の先生が来てくださったりということがとても盛んなところですよ。

下に4歳児がいないという年があるのですけれど、小学校で交流がたくさんできるので、1年生に上がる時に不安がなく進学できるのかなというところもあります。そのあたり保護者の方もいろいろな考え方で悩まれるかなとは思いますが、さんさん広場や、未就園児交流会や岩園幼稚園との交流で何か考えていけないかなと思ったりもしております。小学校との連携というのは子ども達にとってとても良い取組だと思います。小学校の先生もすごく幼稚園の教育を大切に考えてくださいますので、進学のことを思うと、2年間ここで生活していただくのもいいのではないかとも思います。そのあたりは1年たってみないと、お考えが変わられる方もいらっしゃるかもしれませんので、前もって転園について言わなくても大丈夫なのではないかなと思います。

(保護者) ありがとうございます。

(保護者) 2つ質問がございまして、まず最初に、朝日ヶ丘幼稚園の跡地に私立のこども園を誘致することなのですけれども、7月11日公表分として、伊勢幼稚園跡地の定員は150名程度と書いてありますが、朝日ヶ丘幼稚園の跡地の誘致をする予定のこども園の定員は決まっているのでしょうか。

2つ目の質問が、この計画によりますと、公立の幼稚園または保育所が、平成33年、または34年時点で、朝日ヶ丘幼稚園と打出保育所と伊勢幼稚園の3つも閉園することになるかと思うのですけれども、その後でできるのがほとんど私立であり、そして市立のこども園は伊勢と新浜の統合ということだけだと思うのですけれども、その辺りの教育予算ですとか、税金が今まで使われていた分が、幼稚園、保育所が少なくなることによって、どのような動きになるのかなと気になるのですけど。

(事務局伊藤) まず1点目の、朝日ヶ丘幼稚園の後に誘致を考えている私立の認定こども園の定員ですが、まだ検討しているところでございまして、伊勢のほうとは違って、きっちりこれぐらいという数は今ありません。ただ、西蔵の公立認定こども園の定員規模を検討する中で、186人という数字を出させていただいておりますので、一旦めどとしては200人までという定員の規模にしていくのが基本的な考え方かなとは思っております。ただ200人になるのか、150人になるのか、そういったあたりはまだ未定でございまして、まずは大きい課題がございまして、そういった部分をどういうふうクリアしていくのかを優先的に考えていくというところでございます。

2点目の、財政的な面はどうなっていくのかでございましてけれども、

今は朝日ヶ丘の認定こども園の定員規模もまだ決まっていないということもございますので、明確にどういった財政規模になってくるかというところは、まだ振れ幅が非常に大きいです。一定、これだけの施設をつくったり、誘致をする中でも、今、必要としている財政規模はそれほど大きい赤字ではないという見積もりは立てております。ただ、赤字部分はそんなに出ないかなと申し上げておりますけれども、そもそも芦屋市は、幼稚園も保育所もそうですけれども、子育てに関しては右肩上がり、財政的な部分だけではないですけれども、制度的な部分も右肩上がりややっていかないといけないというのが前提としてありますので、赤字部分がもしこの計画の中でどうしても出てくるとしても、だからといって取組を縮小させていくのだという方向性ではございません。子育てに関しては重点的に取り組んでいくという形で取り組みますので、バランスも考えながら、右肩上がりですらに取り組んでいくつもりでございます。

(事務局山川) このプランですけれど、公立の認定こども園ということで、西蔵以外に精道にも予定してございます。ですから公立施設として平成33年には公立の認定こども園を2園つくっていくということでございます。

(保護者) 公立幼稚園の跡地を認定こども園にするということですが、それを公立の認定こども園にすることはできないのでしょうか。

(事務局伊藤) 公立の認定こども園は今、精道と西蔵の2カ所を予定しております。先ほどの御質問にもございましたけれども、芦屋市としては、子育てに関して必要な取組は右肩上がりで行っていくという考えで今もやっておりますけれども、朝日ヶ丘に誘致する部分について、公立でというところについてはいろいろな部分、財政的な部分を考えますと、これはさすがに難しいという判断をしております。

(保護者) 私立か公立かということで、保育の内容に関しましては、どちらも特色があって、とても職員さんが一生懸命取り組んでくださっていると思うのですが、朝日ヶ丘幼稚園の園長先生をはじめ、もちろん教育委員会の方々もはじめ、考えてくださっている子どもに対する保育のあり方が、私はありがたいなと思って日々通わせていただいているので、そういう面も含めて、朝日ヶ丘幼稚園の跡地の認定こども園が市立か私立かということの御質問もあったかと思えます。ここ何年かの間に子どもが幼稚園に入るお母様方がこのたびの説明会にいらっしゃっていると思うのです。一方で4年先の平成33年から開始しますということ

のに当たる方というのは、この場に多くいらっしゃるわけではないかなと思うのですね。

実際、朝日ヶ丘幼稚園が年長さんのときに閉園になってしまって、下の学年の子が入ってこないのに1年間過ごさないといけないお母様であったり、ちょうど4歳になるときにここが閉園してしまうので、ほかの幼稚園を探さないといけないというお母様はいらっしゃると思うのですが、その間のフォローとか、例えば一番多分重要な安全ということをしごく幼稚園で気を配ってくださっているなということを感じますので、例えば朝日ヶ丘幼稚園でしたら、校庭で遊ばれるので自転車は裏にとめてください、万が一倒れて園児さんがおけがされてもいけないのでということ、かなり徹底して下さったりして、そういう面が親としては多少不便だなと感じることはあっても、一番に子どもの安全面をしごく考えてくださっているというのが伝わってくる取組をなさっているのに、通園方法とかにしても、これから考えますとおっしゃっても、幼稚園の周りには一方通行の細い道路がかなりあると思うので、もし認定こども園にして、例えば200人規模の方が車でいらっしゃるとしたら、近隣の住民の方も含めて、この一方通行の道路をどのように回路をとって、なおかつ小学生が通学してくる時間と重なったりすることもあると思うのですけれども。

車と小学生のすみ分けさえできない道路が周りを囲んでいるその中で、200人規模のこども園を誘致するに当たって、財政面とかと一緒に安全面を含めて、もし公立であれば、岩園幼稚園に行かないといけないのですけれども、雨のときも雪のときも急な坂道を通うことになります。数年間の間だからと言われても、その間だけこちらに、例えば廃園するまでは、園バスを出しますとか、山手のほうまで、せめて何日かの間だけでも園のバスを出しますとか、今はほかの通園方法としてどういう形が可能かは今は思い浮かばないのですけれども、こういう形で通園していただきますとか、そういうところまで考えていただければ。

先ほどの話にもありますが、私立のこども園を誘致するということがなったときに、この周りの交通ルートとか、そういうことを含めて可能かどうかを検討した結果、可能であるということでスタートしないといけないと思います。無理かなとなると、ちょっと二、三年またおくれますとすると、当てにされている方も考えが変わってこられるかなと思うので、もちろん予算面とかもあるかと思うのですけれども、現実的なところで、例えばお金の問題もそうだと思いますし、解決しないといけないところが解決できた上で、何年からこうしますということを書いてい



ただいたほうがいいのかと思います。

(事務局伊藤) こちらに私立の認定こども園を誘致するというので、今、おっしゃっていただいたのは、近隣の道路の状況であったり、安全面についてということで1点目を頂戴しているかと思うのですが、今回まさしく公表させていただいた部分での主要な課題というのは、そういったことだと認識しています。もともとのあり方のときには、そういった認識はありましたので、解決を図るには、どうやっていくのが必要かということもともと考えていたのですけれども、いろいろな要望をいただく中では、はっきりとそういった課題も認識して、克服した上で、私立の認定こども園を誘致しないといけないことを表明しないといけないということで、今回出させていただいております。

ただ、具体的にこうやれば安全が確保できる、担保できるというやり方がまだ完全に見出せていませんので、おっしゃるとおり、先にそれを見出した上で、それもセットで提案すべきではないかとおっしゃる部分はそのとおりなのですけれども、待機児童の解消に向けた山手圏域の取組が必要だというお声がございましたので、必ず克服した上で取り組みますということを、今回公表させていただいた次第でございます。ですから、しっかりこの具体案が考えられましたら、早急に御提示させていただきますが、今の時点では御提示できない状況の中で、取り組みを進めるということの意思表示だけでとどまってしまうのが申し訳ないところかと考えております。

(事務局岸田) おそらく2月の説明会でも同様の御意見をいただきまして、そのときもお答えしましたけれども、朝日ヶ丘幼稚園がなくなって1年間だけブランクが発生して、その間に私立の法人さんがここに何か建てかえを1年間でされて、平成33年4月に私立の認定こども園が開園すると。つまり工事中の期間が32年度の1年間ということですよ。

2月にもお答えしましたがけれども、1つは、芦屋の幼稚園が8つあって、もともとは園児全体が1,900人もいて、各小学校区域に1つの幼稚園があるというふうに、昭和40年、50年代からこの体制でやってきました。そのときには1,900人も子供がいましたが、今、500人になっています。そういう子どもたちの動き、状況で、今回は朝日ヶ丘幼稚園とか精道幼稚園とか伊勢幼稚園が、幼稚園としての姿はなくなります。それは子どもが1,900人から500人となり、子どもの動きで保育所の需要がどんどんふえてきています。この動きで、このたび公立幼稚園が3つ幼稚園としてなくなるわけですが、伊勢幼稚園にしても、平坦地ですけど、西蔵のほうへ行っただくということで、8つも用意していて、

当時たくさん子どもがふえてきたので8つ用意したけれど、子どもの数自体が減って、保育所需要がふえてきている中で、幾つかの幼稚園を幼稚園としては整理させていただくという動きですので、おのずからあったものがなくなるということで、遠くなる方も出てくると思います。

そういう動きも想定して、これまで公立幼稚園は徒歩通園が原則ですと言っておりましたが、自転車の通園でもどうぞお越しく下さいというふうに2年前から取り扱いを変えてございます。

御要望に沿えるお答えではないかも知れませんが、例えば岩園幼稚園にしましても、敷地内における、例えば自転車とお子さんの安全の配慮については、岩園幼稚園の中でも当然やっていかなければならない問題ですので、それについては十分配慮してやっていきたいと思えますし、朝日ヶ丘幼稚園から何人かはおそらく岩園幼稚園に来ていただく方もおられ、ふえると思います。その方も自転車で来られることになると思えますので、岩園幼稚園でも安全配慮というのは十分やっていきたいとは考えてございます。

園バスのことについては、なかなか前向きなお答えにはならないのですけれども、御理解いただけたらと思います。

(保護者) 年少の在園児の母親です。幼稚園の中で下の子が上の子を慕うというものがあると思うのです。しかし、私の子どもが今年年少で来年年長になったときに、下の子の数がすごく少ないと、お世話をするというのを学べないというのはあるのですよ。

待機児童を減らすというのも大事なのですけれども、朝、幼稚園の前の道路が通行止めのような形で車が通れないようにしてもらっていますけど、時々原付が通ったりします。1年間工事をする際や、こども園ができたときに、送り迎えの車を使われる方がたくさんいると思うので、そういう車が、送り迎えの方ばかりではなく、怪しい方もいらっしやって、そこに紛れて車をとめて物色される人も出てくると思うのです。

そのときの通学路としての安全対策ですね。これから幼稚園の子も卒園して小学校に行きますし、通るときに工事中というのは危ないけど、今は幼稚園だからこそ御近所の方が行かれていて、知っている子の妹さん、弟さんが行っているとか、知っているママがいるということで、安心して登下校ができていたりもするのに、認定こども園となると帰りは学年ごとに時間が違うし、習いごとで通ったりするときも、結局、認定こども園があいている時間が長いと、それだけ見憶えのない方の出入りがあるということになるので、不安を覚えるところがあるのです。そう

いうことを考えていらっしゃるのかどうかというのを、お聞きしたいのですが。

(事務局岸田) この山手地区の保育所を望まれる方もいらっしゃいますよね。実際上のほうには、幼稚園だけで、保育所的なものがないということもあるので、幼稚園としては一旦閉じますが、ここに認定こども園を整備すれば、ゼロ歳から預けたい方、仕事に行きたい方といった保育を求められる方のニーズにも対応できるのではないかということなのです。

ここを認定こども園にすることによって、不審な車があるのではとありますと、それはゼロではないかもわかりませんが、まずはその整備はしていかないといけない。整備することによって、今の御指摘の不審な車とか、そういうことについては、問題が起こらないような対応を全力でやっていく必要があると。平成33年の話を今ここで確定のお話はできませんけども、通学路であることは確かですし、例えば、全然決まっておりますが、駐車場の配置も、できるだけここを通らないように駐車場の場所を慎重に検討するとか、まだ全く具体的なことはこれからなのですよね。朝小のサブグラウンドを活用して建物をつくるとか、いろいろなことを今後考えていく必要があるということです。

(保護者) 要望として3年保育のことはずっと出ていたと思うのですが、それは全然できなくて、私立の認定こども園を誘致するということなのでしょうか。

(事務局岸田) 今のところはそういうことですね。今の時点では芦屋市内に1つ、愛光さんが幼稚園型認定こども園をやられているのですけれど、幼保連携型の認定こども園は今現在はなくて、この計画が完成すると、南芦屋浜も含めて幼保連携型の認定こども園が公立で2つ、私立では4つ完成することになりますので、3歳の教育ニーズの方もそこへ行けることになりますので、まずはその形で幼稚園の3年保育は対応していきたいと考えているということです。

すみません、先ほど一例で申し上げました。朝小のサブグラウンドの件は例えばということで、まだ全くこれから考えていくことになります。

(保護者) 例えばなのでしょうけど、直接聞いているのではないですけど、例えば市民プールがなくなってしまうので、小学校のサブグラウンド、小グラウンドのほうにプールをつくるのではないかという話を聞いたりもしていたので、どれが本当なのですか。

(事務局岸田) 市民プールはなくなりませんので。

(保護者) 民営化になったりとか、そういう形ですか。

(事務局岸田) 今の段階で民営化ということもなくて、指定管理という形でやってい

ますので、改修をスタートすることのようです。

(保 護 者) 全然知らないのですが、保育園というのは、登園時間というのは何時から何時というのは決まってるのでしょうか。降園時間はお母様もお仕事の終わりぐあいによって変わると思うのですけれども、今だと登園時間は8時40分から50分ですけれども、保育園というのはもう少し幅が広く預かっていただくのですか。

(事務局伊藤) 保育園は、今は芦屋市内では基本的に朝7時から、延長を入れて夜の19時までとなっています。朝も夜も保護者様の通勤だったりという御事情で、基本的には朝7時から9時ぐらいまでの間にお越してください。お迎えは、16時ぐらいから19時ぐらいまでの間にお迎えくださいということです。登園、降園時間は、ここというピンポイントではない運営になっております。

(保 護 者) もしその場合、この幼稚園の周辺は、必要な方しか通らない地域ですけれども、認定こども園に皆さんたくさん来てくださって、200人と考えたときに、半分の100台の車で送り迎えをなさったりすることを考えたときに、今この辺にお住まいの皆様方も御協力とか御理解を得られる上での誘致としないと、自宅の前にどんどん車がとめられるようになられる方もいらっしゃるかと思うので、その辺りも踏まえて反対ですとなったときに、説得して行って可能だろうかという部分も、建てようとなるまでと考えると何年間かしかないと思うので、その辺も大丈夫なのかなどは思いました。

(事務局伊藤) まだ今、車は100台になるかどうかはわかりませんが、多くなるのは間違いないと思いますので、駐車場については検討してまいりますので、それもセットで、建てるというときにはもちろん工事の説明はいたしますので、近隣の方には十分御説明して、御納得いただくようにはしようと考えております。

(保 護 者) 32年に工事を始められるということなのですが、小さいお子さんがいらっしゃるお母さん方の一番の希望としては、そこまででもこの幼稚園を続けていただけないかという気持ちが一番だと思うのですね。住民の方は、いろいろな意見を伝えることができると思うのですけれども、小さいお子さんを連れての方が説明会に来て御発言をするのはなかなか難しいと思うので、もっと皆さんの意見を聞けるように、例えば3歳児健診でアンケートをとるとか、そういった動きというのはできないのでしょうか。今さら遅いという感じなのではないでしょうか。

- (事務局岸田) 今回の御指摘は、32年に工事に入ることについてでしょうか。
- (保護者) こども園にするとしたら、その年の1年で工事を進めるかもしれないみたいなお話をされたではないですか。その間もこの幼稚園を続けていただいて、それまでにまたいろいろな意見を聞いて考えるという。閉園するというのはもう決定したことなのですか。
- 認定こども園にするのに、私立で運営するに当たって、この建物はこのまま使うのですか。
- (事務局岸田) 31年度の末で一旦、朝日ヶ丘幼稚園は子どもさんがいなくなります。32年にはこの建物を、例えば取り壊して、ここに認定こども園を同じ場所に建てます。
- (保護者) 期間はあいていないということですね。希望としたら、このまま公立幼稚園を続けていただきたいというのが一番の気持ちなので、そういう意見をもう少し聞ける、簡単にアンケートなどをとっていただけたら、みんな意見を言いやすいかなと思うのですけれども、もう一度そういう場というか、機会をつくっていただけないかなと思うのですけれども。
- (事務局岸田) 朝日ヶ丘幼稚園に限らず、今回の大きな、そのほかの幼稚園、保育所の計画については、その中でさらに御意見をお伺いして、きょうお配りしている変更点を加味した形で進めていきたいということですので、結論から申しますと、朝日ヶ丘幼稚園の平成32年3月末で一旦は閉めさせていただくということについては、計画を進めていきたいとは考えております。そこをまた白紙というのは、今の段階では難しいですね。
- (保護者) 実際働きに出るとなると、駅から電車に乗って通勤というパターンが多いと思うので、山の上に子どもを預けに来てまた仕事に出るというのは、お母さんの的には朝の時間がないときにしんどいのではないかなとったりもするのですけれども、1年で私立の業者さんを誘致することができるのかなと思うのですが、空白の期間、1年で誘致できなければ、それはどんどん延びていくことになるのでしょうか。
- (事務局伊藤) 既に芦屋市の南のほうにある2園は誘致を実施しております。そのスケジュールの中では、今回のように1年間の建設期間ということで組み込んでおりますので、1年間で建設し、その前には事業者さんの選定という段取りからいきましたら、今のところこのスケジュールで無理があるとかということではなく、少しゆとりは持ちながら進めていけるのかなと考えております。
- (事務局山川) 本日は貴重な御意見をありがとうございました。これにて終了させていただきます。本日はありがとうございました。